輪はふれあいの和

お年寄りの持つ魅力を子供たちに――と、民生（児童）委員の〝ボランティア熟年〟グループが先月十八日、中央保育園の園児たちと、輪イコールふれあいの和……さながらに、楽しい話やゲームで交流をしました。この熟年グループは民生委員の岡本正明さん、渡辺純子さん、棚橋シズさんの三人。豊富な経験と知恵を生かし、子供たちとの世代を超えたふれあいがしたい、という願いから今回実現したもので、保育園側もおじいちゃんらの持つ魅力を見直すよい機会になればと全面協力。「初めてのことなので子供たちが戸惑うのでは」と心配していた熟年グループも「子供たちの反応が敏感で…」と感心しきり。今後、このふれあい会をサンプルに、いろいろな形でお年寄りとの交流の輪を広げていきたいと、胸膨らんだふれあい交流でした。

禅の世界へ

―高齢者学級―

ふれあい会の〈動〉に対し、こちらは〈静〉といった感じの禅の世界。先月16日、公民館の高齢者学級では館外活動として石瀬の種月寺で「禅」に挑戦。住職の寒河江真爾さんの話を聞きながら奥の深い禅の世界へ――。

岩室村の農業を全世界へ

日本駐在外国人記者団が藤田さん宅を訪問

日本の現状を祖国に的確に紹介しようと、積極的な活動を展開している日本駐在外国人記者団二十人が先月十一日、日本の農業の実態を取材するため、橋本の藤田毅さん宅を訪れました。通訳を介しながらの取材に、藤田さんは酪農プラス稲作りの農業形態を紹介。約一時間の視察は終始質問ぜめで、「さすがにプロですね」と記者団の視点に感心する藤田さん一家でした。

いい顔、ありがとう

村敬老会会場で（9月25日/村民体育館）

●この広報紙にあなたが写っていましたら、総務課企画係（☎82四一一一内線二一五）へご連絡ください。写真をさしあげます。

このひと

なにごとも自分自身との戦い

〝海邦国体〟青年男子バスケットボール県代表の

本田康博さん（津雲田・24歳）

今月二十五日から沖縄県で開催される第四十五回国民体育大会秋季大会。通称〝海邦国体〟に青年男子バスケットボールで出場するのが本田康博さん（津雲田・24歳）です。

バスケットボールをやるだけあって体格も格別で、身長百九十センチ、体重は百二十キロもあります。大きい体格の割には（と言っては失礼ですが）笑顔がかわいい好青年です。本田さんは岩室中学校から新潟工業高校をへて福岡大学までずーっとバスケットとともに歩んできました。現在は吉田町の会社に勤めるかたわら、新潟工業高校OBチームに所属しています。

「県代表のチーム員は全員で十二人。ぼくを除いては、みなさん学校の先生なので、宿舎などではチームづくりの一つとして、人の和の中に溶け込むように努力しています」と基本的な人間関係づくりを始めている本田さん。「今月二十二日に上京して、大学生チームと練習試合をした後、二十三日に沖縄県入りする予定です。北信越大会で一位になった余力をかって、ぜひ一回戦は突破したいですね」と語る本田さんの語気に力が入る。バスケットボールは、ご存じのように四十分ハーフで絶え間なく攻防が繰り広げられる最もハードなスポーツの一つ。それは一瞬の判断が好プレーや凡ミスにつながる頭脳的スポーツでもあります。「だから、つねに平常心でいられるよう努力しようと思っています。大きい大会になればなるほど、あがってしまうことが多いので、まず第一に自分自身に勝つために、ぼくは精神集中法として、試合前に鏡の前に立って思いっきり自分の顔(目)をにらみつけています。そして自分に〝がんばるぞ〟と自己暗示を与えるのです。おかげで、その後は、ガラッと顔つきが変わり、チームメイトから〝顔が変わったぞ〟とよく冷やかされます。要するになんでもそうですが、ここ一番というときには、自分自身との戦いなんですね」と精神的安定が第一と語る本田さん。本番の国体では、「ゴール下の一対一の戦いでは、決して負けない」という強い信念で臨むといいます。

そして、自分のなすことは何か、をはっきりみきわめて、全精力を傾けてボールにむかいたいと話す目は鋭い。

趣味はアクションものの洋画ビデオ観賞。酒は、ご本人いわく、「まあまあです」とは言うものの「ぼくの場合は体で飲みます」には編集子もついついうなづいてしまった。でも体の頑健さに比例して精神面でも強い人だとインタビューを通じて感じました。国体ではリラックスしてがんばってください――。

体格に優るとも劣らない強い精神力を持つ本田さん